

<今日の説教のポイント ガラテヤ書6章1～10節>

今年の歩みを覚えて — 今の世にとって教会が持つ意味とは

①現在の世の中、これでいいのか？

世の中がどんどん世知辛くなっています。働いている人は心身に支障をきたすほど忙しくなり、一方で、働きたくても働けない人、スマホに多くの時間を割きつつ孤独感を覚えている人が増えています。このような事態を生み出した原因として、自分の富を増やすために知恵を巡らし何をしてもしよとされるようになった現在の資本主義のあり方が指摘されていますが、AI化をさらに進めようとしている現状に希望は見えません。こんな事態に信仰者は聖書からどのような答えを聞けるのでしょうか？「思い違いをしてはいけません。神は、人から侮られることはありません。人は、自分の蒔いたものを、また刈り取ることになるのです」(7)。このような状況を神様がいつまでも放っておかれるはずがありません。信仰者は義なる神様が全てを見ておられることを忘れてはなりません。しかしそれだけではなく、次に示すように、主の教会が今の世の中で大きな安らぎの場となることにもっと目を注ぐ必要があると思います。

②互いの欠けを覚え合いつつ生きていける場所、教会を持つ恵み！

ガラテヤ書6章1～5節は、一見、「罪に陥った人がいたら、その人を正しい道に導きなさい」、と教えているように思えますが、むしろ、「注意するあなたがたも同じ罪を犯し得る存在であることを思いなさい」という点にこそ重きが置かれています(原文について説明)。私は、ヨハネ福音書8章の、罪の現場を押さえられた女と人々に示されたイエス様の言動を思います。誰も「自分に罪はない」とは言えないのです。だからこそ、その罪を赦して下さい、「私と共に生きよう」と言って与えて下さったお方と共にいられる場所、教会は大事なのです。今の社会がこれでいいのではないことは誰もが分かっています。それはいずれ「蒔いたものを刈り取る」ときが来るでしょう。そのことを思いつつ、本当にあるべき「共に生きる生き方」(「互いに(めいめいの)重荷を担う」2,5節)に取り組む教会で過ごす時を持てることは、今の時代、とても大事だと思います。このような教会を示せる伝道に今年も取り組んで行きましょう！